

# 平成18年度 国立赤城青少年交流の家 企画事業報告

## 1 企画事業の計画・立案・実施にあたっての考え方

平成18年度企画事業については、新法人の中期目標及び中期計画、平成17年度主催事業の実施結果、機構本部から指示された指針「平成18年度企画事業計画立案に当たって」を踏まえて計画し、事業展開を行った。

新法人設立後、統一テーマである「体験活動を通じた青年の自立」のもと、特に喫緊の課題として、3つの重点テーマ「勤労観・職業観の育成」「次代を担うリーダーの育成」「特定の状況にある青少年の支援」が示された。これらのテーマに結びつけ、国立施設の事業としての必要性を鑑みながら、本所として継続的に取り組むべき「環境教育」と「ボランティア活動」の推進を踏まえて、施設企画事業を計画、立案した。

まず、重点テーマに係る事業としては、「勤労観・職業観の育成」に関連づけて、自己実現のきっかけを提供するためにキャリアプランやビジネススキルを学ぶ「夢実現セミナー」を実施した。また、「特定の状況にある青少年の支援」に関連づけて、障害者・健常者を対象にして、福祉活動や野外体験をプログラム内容に盛り込んだ「ユニバーサルキャンプ」を実施した。

その他、「青少年教育指導者等の研修事業」では、所内の施設を活用し、「プロジェクトアドベンチャー」関連の事業を2回行った。主体性を重んじた新しい体験学習法を学ぶことにより、参加した指導者が日常の青少年教育活動に活かせるような内容で実施した。また、「先導的、モデル的な体験活動事業」では、新規事業として「演劇コラボレーションワークショップ」や「コミュニケーションワークショップ」を実施し、演劇や言葉を切り口にして、コミュニケーション能力や自己表現を学ぶ機会を提供した。「環境教育に関する事業」では、「『環境の日』から始めよう」及び「環境教育関東ミーティング」を実施した。参加者が、自然との関わりや他者との関わりを通して、多くの気づきを得ることにより、日常生活での実践につなげることをねらいとした。ISO14001（環境マネジメントシステムの国際規格）の認証を取得している本所としては、他の事業全般においても、環境に配慮して取り組むこととしている。「ボランティア学習の推進を目的とした事業」は、法人ボランティアの確保やスキルアップの観点から、入門編としての「あかぎボランティアセミナー」及び「ユニバーサルキャンプ」に関連して、事前及び事後研修と位置づけたボランティア対象の事業を実施した。特に後者は、事業の企画・運営に協力しながら、専門的な技術や実践力を修得することをねらいとした。「国際交流・異文化理解事業」では、「国際サマーキャンプ」を実施した。「国際サマーキャンプ」は、群馬県教育委員会との連携事業である。

## 2 企画事業の評価・普及・広報等について

事業の評価は、講師やスタッフのふりかえり及び参加者アンケートの回答を中心に行った。（各事業の評価については、事業ごとの評価ページを参照）

普及及び広報については、報道機関等との連携を積極的に行い、事業の広報や実施状況の報道を依頼した。今年度は、「国際サマーキャンプ」及び「ユニバーサルキャンプ」が群馬テレビで放映され、その他の企画事業についても新聞等で紹介された。また、共催団体、後援団体等との連携を密にし、Webページやメールマガジン及び会報等で事業内容や報告を掲載していただいた。さらに、事業の参加者が成果を持ち帰り、日常の活動に活かしている報告などを随時受け付けている。その他、インターネットを利用して、本所のWeb上にその成果や報告を公開してある。